

# たんぽぽ

2017. 6. 1



## 病院でも HAPPY BIRTHDAY

もう3か月も入院しているYさんにとって、ベッドの上での生活はストレスフル。多少体調が悪くても北里学級の授業には参加して、勉強だけでなくゲームをしたり、仲間と触れ合ったりしたとしても、Yさんの気持ちはなかなか晴れません。そんなYさんは、大切な誕生日を病院で迎えることになりました。嬉しいはずの誕生日を病院で迎えないといけない現実が、Yさんの気持ちをますます暗くしていたのかも知れません。

誕生日の前日の放課後、Yさんに内緒で教室に集まった3人の小学生とそのお母さんたちは、教室に誕生会の飾り付けをしてくれました。本当はクラッカーを鳴らしたいけれど病院ではできないので、「テープ」だけ投げる練習もしました。

誕生日当日、教室に入ったYさんの驚きの声と「ハッピーバースデー」の歌声。「Yちゃんおめでとう！」の声とともに投げられたテープは、ちょっと失敗しちゃったけれど、紙粘土で作ったケーキやお寿司をプレゼント。Yさんはとても喜んでくれました。

病院で生まれた子ども同士の絆。お互いに病気や怪我のことはあえて聞かないけれど、知らず知らずのうちに、相手の気持ちを思いやる心が育っています。「辛い思いをした人ほど、他人に優しくなれる」そんな言葉を思い出させる素敵な誕生日になりました。



## 「一生懸命作ったので食べてください」

北里学級では年に何回か調理実習をおこなっています。教室には以前から調理器具が整備され、実習のためのシステムも整っていて、小児病棟、栄養部、感染管理室から助言を受け、保護者の同意の下に医師の許可があった子どもが参加しています。

今回の実習は「蓬<sup>よもぎ</sup>だんご作り」。市販の「よもぎ入り白玉粉」を使って、子どもたちは実際に水を加えて練り、丸めて熱湯に入れる、という行程を楽しみました。出来上がった蓬だんごはフードパックに詰めて、院内の部署にお届けします。

「一生懸命作ったので食べてください」と言いながら、緊張した面持ちで「作品」を手渡すと、必ず「ありがとう」という言葉を返してくださいます。



(いつも大歓迎してくださる栄養部のみなさんと)

入院中の子どもたちは、「人の役に立っている」、「自分は必要な存在だ」などの感情から遠ざかってしまっているため、こうした機会が子どもたちにとって大きな励みとなっているのです。

## 研究テーマは「連携」

北里学級を設置している双葉小と麻溝台中は、「県病研」（神奈川県病弱虚弱教育研究会）に所属して様々な研究をおこなっていますが、先日県病研の総会が大和市立病院でおこなわれました。北里学級からは小中学部の担当職員と双葉小の米澤由美子校長が参加し、これまでの研究成果と今年度の研究内容について話し合いました。

今年度の研究のテーマは「連携」。保護者の方との、小学部と中学部、病院や在籍校と、市教育委員会などと、これまでも連携しながら子どもたちを支える方法を模索してきた北里学級にふさわしいテーマだと考えています。7月には研究発表もおこなわれますので、その様子もこの学級だよりでお知らせしたいと思います。